

幕別中学校を活用した義務教育学校の 設置に係る方針(案)

1	はじめに	2
2	幕別小学校及び幕別中学校の歴史及び特色のある教育活動	4
3	小中一貫教育の取組	5
4	児童生徒数の推移及び将来の見通し	7
5	施設整備の方向性	12
6	今後の「まくべつ学園」のあり方	13
7	今後の主なスケジュールについて	15
参考1	「幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について」に関する保護者アンケートの結果について【概要】	16
参考2	幕別小学校配置図	24
参考3	幕別中学校配置図	25
参考4	幕別小学校平面図	26
参考5	幕別中学校平面図	28

令和5年10月

幕別町教育委員会教育部学校教育課

1 はじめに

本町の小中学校の施設（以下「学校施設」という。）は、昭和50年代から帯広市のベッドタウンとして市街地の拡大により人口が増加したことに伴い、昭和50年代に多くが建築されましたが、それらの施設に老朽化の波が押し寄せており一斉に更新時期を迎えつつあります。

学校施設は未来を担う子どもたちが集い、生き生きと学び、生活する場であるとともに、地域住民にとっては生涯にわたる学習、文化、スポーツなどの活動の場であり、災害時には避難所としての役割も果たす重要な施設です。

平成25年11月、国は「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、中長期的な維持管理・更新に係るトータルコストの縮減や予算の平準化を図る方向性を打ち出し、平成27年3月には、文部科学省が「文部科学省インフラ長寿命化計画（行動計画）」を策定しました。

本町においては、平成29年3月に「幕別町公共施設等総合管理計画」を策定し、中長期的な視点から計画的に公共施設の総量や配置の適正化を図り、町民に持続可能な行政サービスを提供していくために、公共施設の維持管理等の基本的な指針を示したところです。

それを受けて教育委員会では、令和2年11月に「幕別町学校施設の長寿命化計画」を策定し、従来の改築中心の維持管理方法から、長寿命化改修工事等による建物の長寿命化方針に切り替え、築約20年（または長寿命化改修から約20年）を迎えた建物について予防保全的な改修工事を行い、築約40年で長寿命化改修工事を行うことで、建物を約80年間使用できるように改修を行っていくこととしました。

計画に基づき、令和4年度から札内南小学校の校舎及び屋内運動場の長寿命化改修工事に着手し、今後も計画的・継続的に学校施設の長寿命化を実施していく必要があるため、建築年数や劣化度調査などの結果を踏まえ、次期対象施設として幕別小学校校舎を検討してきたところであります。

以上を踏まえ、令和4年7月に「幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について」を策定し、幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育を推進するに当たり、次の3通りから、「まくべつ学園」のあ

り方と施設整備の方向性を検討してまいりました。

- (1) 幕別小学校と幕別中学校を使用した「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」
- (2) 幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「施設一体型」の「小中一貫型小学校・中学校」
- (3) 幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「義務教育学校」

この間、保護者に対しましては、令和4年11月と12月に、幕別小中学校それぞれで保護者懇談会、令和5年2月には、まくべつ学園講演会（大空学園義務教育学校の取組から見る小中一貫教育）を開催し、具体的な内容を聞いていただき、皆様に考えていただく場面を設け、5月には、幕別小中学校全保護者を対象に、「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性の検討内容について、保護者の考えや浸透度合いを把握するため、アンケート調査を実施したところであります。

また、令和5年1月から毎月、幕別小中学校で発出する「学校だより」で、検討している内容などの説明のほか、小中一貫教育、大空学園義務教育学校での取組やメリットなど、シリーズ化しながらお伝えしてまいりました。

教育委員会としては、「まくべつ学園」で小中一貫教育が積極的に取り組まれていることや、保護者アンケート調査の結果で「義務教育学校」とする回答が最も多かったこと、「義務教育学校」のメリットが相当大きいこと、建築年数や劣化度調査などの結果から、幕別中学校の活用が適切であることなどを総合的に考え、「幕別中学校を活用した義務教育学校（案）」の方向性を示し、9月には「地域説明会」を開催したところであります。

以上を踏まえ、「まくべつ学園」の更なる小中一貫教育の推進にあたり、「幕別中学校を活用した義務教育学校」の設置に係る本方針を定めるものであります。

（ 「まくべつ学園」とは、令和元年度に設置し、幕別本町地区の幕別小学校と幕別中学校で構成する「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」をいいます。）

2 幕別小学校及び幕別中学校の歴史及び特色のある教育活動

(1) 幕別小学校

幕別小学校は、昭和7年に現わかば幼稚園敷地に建築した校舎の改築を機に、近隣に所在する新川小学校、大豊小学校、西猿別小学校との統合が計画され、昭和51年度、幕別中学校隣接地の現幕別小学校用地の買収を行い、普通教室18、特別教室7、特殊学級教室1など延べ4,416㎡の鉄筋コンクリート造2階建ての校舎を2カ年で建設、昭和53年4月に新設開校し、鉄骨造981㎡の屋内運動場は開校後の昭和53年12月に完成しました。

また、昭和62年4月に新和小学校、平成8年4月に相川小学校が統合し、平成22年度には、校舎及び屋内運動場の耐震補強工事を実施し、現在は指定避難所にもなっています。

幕別小学校では、「未来に生きる高い知性と豊かな心情と強い意志をつちかい主体的に行動できる心身ともに健康な子どもを育てる」を教育目標として掲げ、「子どもの権利条例」の理念を実践の場で体現すべく、「子どもを真ん中にした学校づくり」を合言葉に、児童会活動や行事に向けた実行委員会の取組に、学びの中で身に付けた「話し合う力」を生かせるような教育活動のほか、教科担任制の実施など、特色ある教育活動を積極的に進めています。

(2) 幕別中学校

幕別中学校は、昭和22年5月1日、幕別小学校の一部を借りて開校し、同年8月12日に、普通教室8など831.6㎡の校舎が完成、昭和24年に特別教室4を含んだ9教室を新築し、昭和26年には普通教室1、特別教室1を増築しました。

昭和36年には、老朽化著しい校舎を6カ年計画で新築に着手し、昭和41年12月に現幕別中学校用地に3,084.64㎡の校舎が完成、昭和57年から2カ年で大規模な改修工事を実施したほか、昭和63年には鉄筋コンクリート造1,243㎡の屋内運動場の全面的改築を行い同年12月に完成しました。

平成4年には屋内運動場を除いて建替えを行い、鉄筋コンクリート造2階建、4,508㎡の新校舎は普通教室12、特別教室11を南側と北側に配置し、2階部分は廊下で結び、平成5年3月10日にプレハブの仮設校舎から現幕別中学校校舎に引っ越しが行われ、現在は指定避難所にもなっています。

幕別中学校では、「美しく たくましく」を校訓として掲げ、行事における異学年集団の「縦割り活動」、学力向上プランや年間・単元シラバスを活用した授業改善、習熟度別少人数指導やT T等の活用、長期休業中の学習教室の実施などの組織的な取組を行っています。

3 小中一貫教育の取組

(1) 本町の小中一貫教育

小中一貫教育については、平成27年6月の通常国会で、9年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類である「義務教育学校」の設置を可能とする改正学校教育法が成立し、関係政省令、告示と合わせて平成28年4月1日に施行されました。

本町では、平成29年度に「幕別町小中一貫教育基本構想」を策定し、義務教育9年間を見通した児童生徒の育成をめざし、「小中一貫教育」を積極的に推進することとしました。

具体的には、小中一貫した学力体力向上、学習指導、学習常規、生活規範、特別支援教育等に関する確かな接続をはじめ、乗入授業や交流学習、合同研修会などの児童生徒、教師が触れ合える機会を設定するなどを進め、令和元年度からは町内各中学校を核とする5学園で「施設分離型」の小中一貫教育を推進しています。

(2) 「まくべつ学園」の小中一貫教育

「まくべつ学園」は、平成30年度の「幕別町小中一貫教育モデルエリア指定（隣接型一貫校）」を経て、令和元年度に本格的にスタートしましたが、「未来を力強く生きる 自立した子どもの育成」を一貫教育の目標として掲げ、9年間の一貫した系統的な教育課程の編成を実施して

います。

その他、中学校教員の小学校への乗入授業、小学生の中学校登校のほか、小学校と中学校が連携した児童生徒会活動を通じて、地域のお年寄りへの暑中しがきや年賀状を送る活動や清掃など地域ボランティア活動、毎朝のあいさつ運動、いじめ撲滅運動など、小中一貫教育に積極的に取り組んでいるところでもあります。

(3) 「まくべつ学園」での取組の成果

「まくべつ学園」の小学校から中学校までの全国学力・学習状況調査結果の正答率の経年分析により、学力の上昇が確認されるなど、小中一貫を踏まえた指導による学力向上の成果が見られたほか、小学校と中学校の英検受検者が増加し、3級以上、さらには準2級以上を取得する児童生徒も増加するなど、乗入授業による効果が現れています。

(4) 「まくべつ学園」の昨年度の乗入授業アンケート結果

小学校の教員では、「専門的な知識を持った教員が授業に参加してくれるので心強い」、「中学校教員は教科経営での良き相談相手となっている」、中学校の教員では、「子どもの個性や特性が入学前にわかるので、入学後の生徒指導がスムーズにできる」、「教科の系統性や小中の指導のつながりがわかり、互いの指導に生かすことができる」などの感想がありました。

また、児童においても「毎回、中学校の先生が来てくれるので、親しく話せるようになった」、「中学校に行くのが楽しみになった」など、前向きな感想が多く聞かれ、児童・生徒と教員双方にメリットが出ていることから、一貫した指導の効果が現れているとともに、中1ギャップの緩和にもつながっていると考えられます。

表－１ 令和５年５月現在の北海道内の小中一貫教育の設置・導入状況

	管内数	市町村数	学校数
義務教育学校	9 (9)	20 (18)	24 (19)
※うち十勝	1 (1)	2 (2) <帯広、新得>	2 (2) ※大空、富村牛
小中一貫型小・中学校	12 (11)	27 (24)	52 ※中52校、小76校 (41) ※中41校、小54校
※うち十勝	1 (1)	2 (2) ※幕別、陸別	6 (6) ※中6校、小10校

※下段の（ ）は令和４年５月現在

４ 児童生徒数の推移及び将来の見通し

「幕別町人口ビジョン」における将来の人口の推計結果では、2045（令和27）年には、総人口が２割減少し、2060（令和42）年には20,000人を下回る見込みであり、幕別本町地区においても、出生数の減少及び少子高齢化などにより、地区全体では将来的に児童生徒数が減少する見通しとなっています。

(1) 幕別小学校

幕別小学校では、昭和53年度の新設開校以降、昭和56年度に児童数794人、学級数は22学級でピークを迎え、令和５年５月１日現在の児童数は163人、通常学級６学級、特別支援学級８学級（知的学級２学級、情緒学級３学級、言語学級１学級、肢体不自由学級１学級、病弱学級１学級）となっております。

今後は、令和27年度までに児童数は緩やかな減少傾向（22年間で約19.0%減）にあり、学級数は通常学級の６学級は変わらず、特別支援学級は７～６学級で推移することが予想されます。

(2) 幕別中学校

幕別中学校では、昭和38年度に生徒数778人、学級数は20学級でピークを迎え、令和５年５月１日現在の生徒数は83人、通常学級３学級、特

別支援学級 3 学級（知的学級 1 学級、情緒学級 2 学級）となっております。

今後は、令和27年度までに生徒数は緩やかな減少傾向（22年間で約18.1%減）にあり、学級数は通常学級の3学級は変わらず、特別支援学級は令和7年度に6学級に増加し、その後は5～4学級で推移することが予想されます。

表－2 令和5年5月1日現在の児童生徒数及び学級数

○幕別小学校

（単位：人、学級）

学年	通常学級						特別支援学級	合計
	1	2	3	4	5	6		
児童数	20 (8)	18 (9)	23 (3)	21 (8)	18 (4)	25 (6)	(知的) 10 (情緒) 22 (言語) 2 (肢体) 1 (病弱) 3 合計 38	163
学級数	1	1	1	1	1	1	(知的) 2 (情緒) 3 (言語) 1 (肢体) 1 (病弱) 1 合計 8	14

※通常学級の児童数の（ ）は特別支援学級の児童数

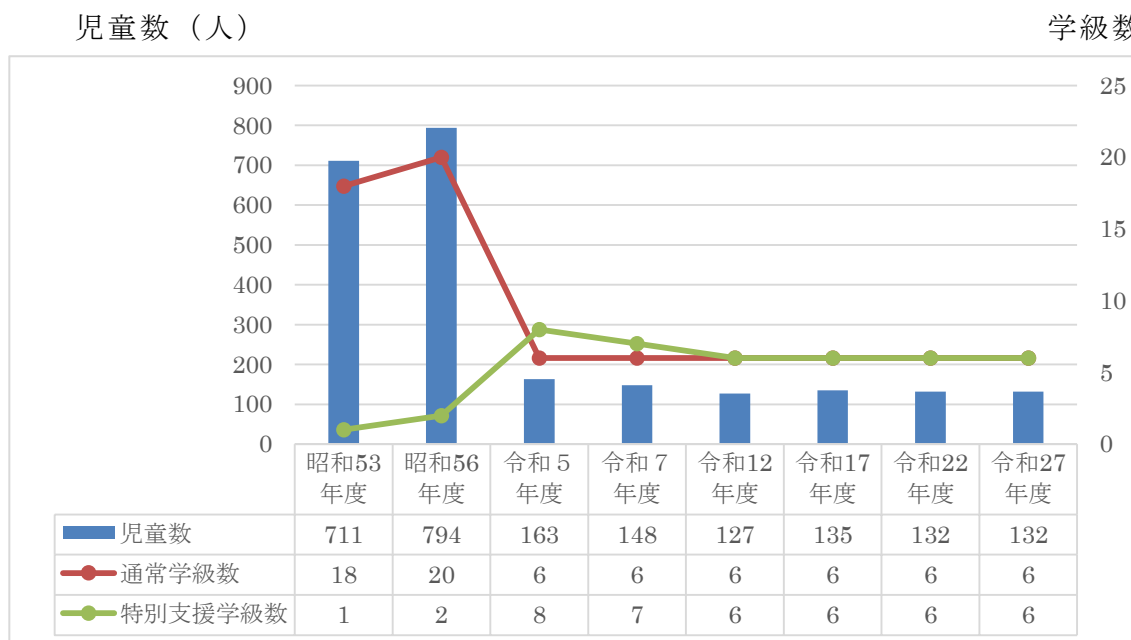
○幕別中学校

（単位：人、学級）

学年	通常学級						特別支援学級	合計
	1	2	3					
生徒数	24 (5)	18 (6)	27 (3)				(知的) 3 (情緒) 11 合計 14	83
学級数	1	1	1				(知的) 1 (情緒) 2 合計 3	6

※通常学級の生徒数の（ ）は特別支援学級の生徒数

図－１ 幕別小学校の児童数・学級数の推移と将来の見通し（R5.5.1現在）

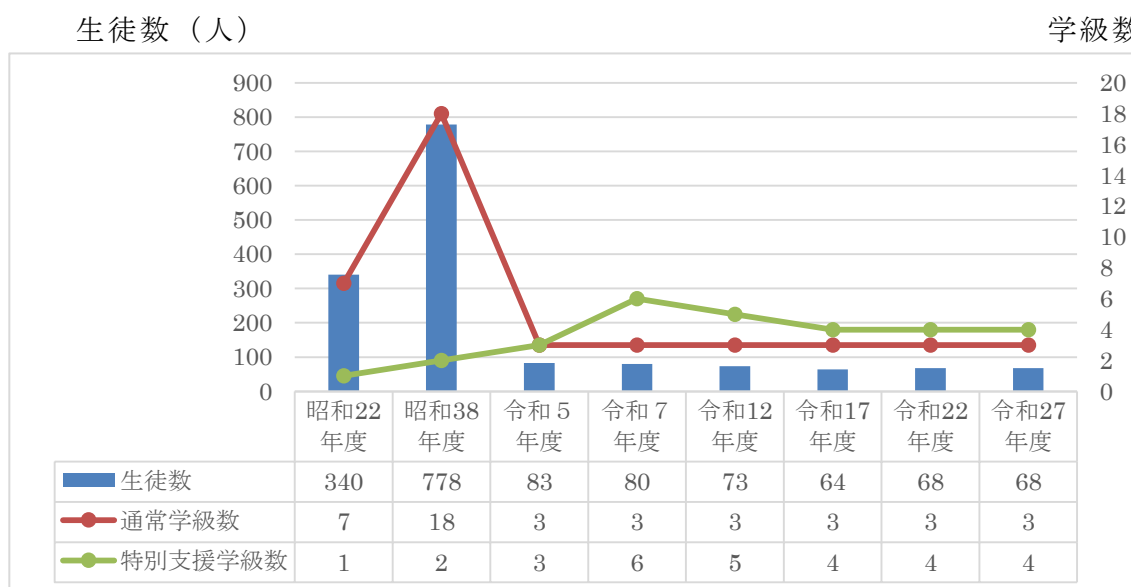


※R5年度以前は実績数

※R7年度以降は「第2期幕別町子ども・子育て支援事業計画」の「人口の推計」と「幕別町人口ビジョン」から5年ごとの幕別市街地人口の各年齢の人口から算出

※「特別支援学級数」のR6年度の第1学年以降の対象者は近年の状況から推計

図－２ 幕別中学校の生徒数・学級数の推移と将来の見通し（R5.5.1現在）



※R5年度以前は実績数。幕別小学校と同様に算出

※「特別支援学級数」は幕別小学校から対象者がそのまま移行することで推計

(3) 通学区域の状況

通学区域は、幕別町立小、中学校通学区域規則（昭和55年教育委員会規則第3号）において定められ、幕別小学校と幕別中学校の通学区域（本町1・2・3、幸町、旭町1・2・4、錦町1・2、寿町1・2・3、宝町、新町、南町1・2、緑町1・2・3・4、相川・東・西・南・北、大豊、豊岡1・2、明野南・北、新川、軍岡、猿別、西猿別、新和）は一致しており、スクールバスを5路線（6台）で運行しています。

表－3 幕別小学校、幕別中学校スクールバス路線（R5.5.1現在）

	路線	経路（距離）	乗車時間	人数	備考
①	南勢幕別線	南勢（17km）	24分	6人	ジャンボタクシー
②	新和線	新和→猿別（25km）	43分	13人	
③	新川線1	大豊→新川（11km）	22分	4人	ジャンボタクシー
	新川線2	明野（4km）	10分	2人	ジャンボタクシー
④	大豊線	大豊→明野（7km）	16分	8人	
⑤	相川線	相川→猿別（16km）	27分	9人	

(4) 学校施設の状況

① 幕別小学校

「幕別町学校施設の長寿命化計画」において、幕別小学校校舎（築46年）の劣化状況評価の健全度は、札内南小学校及び札内北小学校校舎とともに37点で最も低く、第1期（令和3～12年）に長寿命化工事を実施する計画となっており、建築年数や劣化度調査などの結果を踏まえ、令和4年度から2カ年で実施する札内南小学校の長寿命化改修工事の次期対象施設と検討してきたところであります。

また、屋内運動場（築45年）は、健全度が45点で他の学校施設と比較しても低い点数となっており、第1期（令和3～12年）で長寿命化工事を実施する計画になっております。

② 幕別中学校

幕別中学校校舎（築30年）は、健全度が59点で、第1期（令和3～12年）に予防保全的な改修工事を実施し、第3期（令和23～32年）に長寿命化工事を実施する計画となっております。

また、屋内運動場（築35年）は、健全度が65点で、第3期（令和23～32年）に長寿命化工事を実施する計画となっております。

表－4 幕別町長寿命化計画における学校施設劣化度評価結果（抜粋）

施設名	建物用途	階数	延床面積 (㎡)	建築年度	劣化状況評価					
					屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度 (100点満点)
幕別小学校	校舎	2	4,416	S52	D	C	C	C	C	37
	屋体	1	981	S53	A	C	C	C	C	45
幕別中学校	校舎	2	4,508	H5	D	C	B	B	B	59
	屋体	1	1,243	S63	B	C	B	B	B	65

※「A」：概ね良好、「B」：部分的に劣化

「C」：広範囲に劣化、「D」：早急に対応する必要がある

表－5 幕別町長寿命化計画における長寿命化の実施計画（抜粋）

施設名	建物用途	対応方針			
		第1期	第2期	第3期	第4期
		概ね10年以内に長寿命化改修	概ね20年以内に長寿命化改修	概ね30年以内に長寿命化改修	概ね40年以内に長寿命化改修
		R 3～12	R 13～22	R 23～32	R 33～42
幕別小学校	校舎	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
	屋体	長寿命化改修		長寿命化(予防)	
幕別中学校	校舎	長寿命化(予防)		長寿命化改修	
	屋体			長寿命化改修	

5 施設整備の方向性

令和元年度から幕別小学校と幕別中学校は、小中一貫教育が推進され、義務教育9年間を見通した計画的・系統的な学習指導や生徒指導による学力向上や、いわゆる中1ギャップの緩和が図られてきております。

今後もさらに、小中一貫教育を進めるに当たり、次の3通りの施設整備の方向性が考えられます。

- (1) 「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」
⇒幕別小学校と幕別中学校のそれぞれを使用
- (2) 「施設一体型」の「小中一貫型小学校・中学校」
⇒幕別小学校あるいは幕別中学校を活用
- (3) 「義務教育学校」
⇒幕別小学校あるいは幕別中学校を活用

表－6 義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校の違い

	義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校	
		中学校併設型 小学校併設型	中学校連携型小学校 小学校連携型中学校
設置者	-	同一の設置者	異なる設置者
修業年限	9年 (前期課程6年+後期課程3年)	小学校6年、中学校3年	
組織・運営	1人の校長、1つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織	
免許	原則小学校・中学校の両免許状を併有 ※当面の間、小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能	所有する学校の免許状を保有していること	
の教 特 育 例 課 程	一貫教育に必要な 独自教科の設定	○	○
	指導内容の入替 え・移行	○	×
施設形態	施設一体型・施設隣接型・施設分離型		
設置基準	前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準、中学校には中学校設置基準を適用	
設置手続き	市町村の条例	市町村教育委員会の規則等	

6 今後の「まくべつ学園」のあり方

(1) これまでの「まくべつ学園」の小中一貫教育の取組について

「まくべつ学園」では、「未来を力強く生きる 自立した子どもの育成」を小中一貫教育の目標として掲げ、9年間の一貫した教育課程の編成を実施し、中学校教員の小学校への乗入授業、小学生の中学校登校のほか、小学校と中学校が連携した児童生徒会活動を通じて、様々な活動を行うなど、小中一貫教育に積極的に取り組み、多くの成果を挙げており、更なる推進が必要と考えます。

(2) 今後の小中一貫教育の進め方に関する保護者アンケート調査の結果について

令和5年5月には、幕別小学校と幕別中学校の全ての保護者を対象に、「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性の検討内容についてアンケート調査を実施したところですが、今後の方向性については、以下のとおり「義務教育学校」が最も高い回答率となりました。

	「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性	回答数	回答率
1	幕別小学校と幕別中学校を使用した「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」	46件	28.9%
2	幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「施設一体型」の「小中一貫型小学校・中学校」	52件	32.7%
3	幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「義務教育学校」	56件	35.2%
合計		154件	96.8%

※アンケート調査の回答数159件（全家庭数191件、回答率83.3%）

※アンケート調査の概要は別紙「参考1」のとおり

(3) 義務教育学校で考えられるメリットについて

義務教育学校では、教育課程区分を「前期課程6年-後期課程3年」以外にする特例があり、9年間の中で独自の区分を設けて子ども達の発達段階に応じて、柔軟で効果的な教育課程を組み指導を行うことが可能となります。

また、一つの「学校組織」であることから、1名の校長のリーダーシップのもと、9年間を見通した教育目標を掲げ、児童生徒の指導に当たり、より多くの教職員が関わるということが可能となり、児童生徒の資質や能

力を伸ばすことが期待できることや、9年間継続して、教員間で児童生徒の情報を共有しやすく、児童生徒の個性に応じたきめ細かで丁寧な生徒指導が可能となります。

さらに、義務教育学校における1年生から9年生までの児童生徒が学校行事などを通じた異学年交流による精神的な発達や社会性の育成の効果が期待されております。

その他、「9年間の人間関係の固定化」や「小学校6年生の最高学年の自覚や達成感の低減」などのデメリットも考えられていますが、具体的な運営方法によって軽減できると考えます。

(4) 幕別小学校と幕別中学校の学校施設の状況について

「幕別町学校施設の長寿命化計画」に基づき、築約20年（または長寿命化改修から約20年）で予防保全的な改修工事、築約40年で長寿命化改修工事を行うことで、建物を約80年間使用できるように改修を行っていくこととしていますが、両校の学校施設の建築年数や劣化度調査などの結果を踏まえ、「幕別中学校を活用」することで進めてまいりたいと考えています。

(5) 「幕別中学校を活用した義務教育学校（案）」地域説明会について

9月26日に開催した「地域説明会」では、保護者や地域住民、教職員が60名参加し、今後の「まくべつ学園」のあり方として、上記の(1)から(4)までの説明を踏まえ、「幕別中学校を活用した義務教育学校（案）」の方向性を示したところですが、反対する意見はなく、理解を得たものと考えております。



以上のことから、「幕別中学校を活用した義務教育学校」の設置を進めてまいります。

7 今後の主なスケジュールについて

令和5年度末までに札内南小学校の長寿命化改修工事を完了する予定ですが、今後も計画的・継続的に学校施設の長寿命化工事を実施していく必要があるため、令和6年度以降に、教室不足の解消や義務教育学校としての特色ある学校づくりを行うことを念頭にした増築および改修工事を行う予定です。

また、令和5年度中に「本町地区義務教育学校準備協議会（仮称）」を設置し、未就学児童や児童生徒の保護者、まくべつ学園運営協議会の代表者などに加え、幕別小・中学校の校長および教頭を構成員として、「義務教育学校の校名、校歌、校章に関すること」、「義務教育学校の増築および改修に関すること」、「義務教育学校の教育課程区分、指導形態等に関すること」、「義務教育学校の開設準備に関すること」を協議していくことを想定しており、最終的には令和8年4月の開校を目指してまいります。

年度	(仮) 本町地区義務教育学校準備協議会	町議会、増築・改修等、その他
R5	(1) 第1回～第4回会議 ① 校名の選定・決定 ② 増築・改修内容検討 ③ 校歌・校章の選定 ④ 制服・指定ジャージの選定 ⑤ 主な学校行事等の検討 ⑥ P T A部会の設置・開催等 ⑦ 教育課程区分、指導形態等検討	(1) 町議会定例会 ① (仮)本町地区義務教育学校準備協議会の設置に係る条例改正、補正予算 ② 幕別町立学校設置条例の改正・制定 ③ 令和6年度当初予算 (増築・改修に係る実施設計)
R6	(1) 第5回～第12回会議 ① 増築・改修内容検討・決定 ② 校歌・校章の選定・決定 ③ 制服・指定ジャージの決定 ④ 主な学校行事等の決定 ⑤ P T A部会の設置・開催等 ⑥ 教育課程区分、指導形態等検討	(1) 増築・改修に係る実施設計 (2) 町議会定例会 ① 令和7年度当初予算 (増築・改修に係る工事) ② 工事議決
R7	(1) 第13回～第17回会議 ① 新組織分掌事務・服務内規決定 ② 教育課程区分、指導形態等決定 ③ 跡地・跡施設の活用方法検討等 ④ P T Aの再編対応等	(1) 増築・改修に係る工事 (2) 幕別小・中学校 閉校式
R8		(1) 義務教育学校 開校式

参考 1

「幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について」に関する保護者アンケートの結果について【概要】

1 実施理由

幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育を推進するに当たり、「まぐべつ学園」のあり方と施設整備の方向性の検討内容について、あらためて、全保護者に検討内容を伝え、アンケート調査を行うことにより、保護者の考えや浸透度合いを把握する。

2 実施内容

5月8日（月）～15日（金）の期間、幕別小中学校全保護者（実家庭数）に対し、17、18ページの「幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について（説明資料）」と、19～23ページの「保護者アンケート用紙」を配付して実施した。

3 実施結果

幕別小中学校全保護者（実家庭数）の回答率は83.3%であった。

※幕別小学校：115家庭（児童163人）、82.6%（95件/115件）

※幕別中学校：76家庭（生徒83人）、84.2%（64件/76件）

詳細については、**19～23** ページからの「各設問の内容と回答の傾向」のとおり。

「幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について（説明資料）」

幕別小学校と幕別中学校は、令和元年度から「まくべつ学園」として、9年間の一貫した系統的な教育課程を編成し、中学校教員の小学校への乗入授業、小学生の中学校登校など、小中一貫教育に積極的に取り組み、様々な成果を挙げています。

また、幕別町教育委員会では、令和2年11月に「幕別町学校施設の長寿命化計画」を策定し、令和4年度から札内南小学校の長寿命化改修工事に着手していますが、次期対象施設として幕別小学校校舎を検討してきたところでもあります。

以上を踏まえ、幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育を推進するに当たり、次の3通りから、「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性を検討しています。

- (1) 幕別小学校と幕別中学校を使用した「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」
- (2) 幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「施設一体型」の「小中一貫型小学校・中学校」
- (3) 幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「義務教育学校」

そのような中、2月24日（金）には、小中一貫教育「まくべつ学園」講演会として、「大空学園義務教育学校」の村松校長を講師に迎え、「大空学園義務教育学校の取組から見る小中一貫教育」と題して講演会を開催しました。約50名の保護者や教職員等が参加をいただき、保護者の中から「まくべつ学園も義務教育学校の方向性で」との意見があったところでもあります。

○義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校の違い

		義務教育学校	小中一貫型小学校・中学校
修業年限		9年（前期課程6年・後期課程3年）	小学校6年、中学校3年
組織・運営		1人の校長、1つの教職員組織	それぞれの学校に校長、教職員組織
免許		原則、小・中学校の両免許状を併有（当面の間、小学校免許状で前期課程、中学校免許状で後期課程の指導が可能）	所属する学校の免許状を保有していること
教育課程の特例	一貫教育に必要な独自教材の設定	○	○
	指導内容の入れ替え・移行	○	○
施設形態		施設一体型・施設隣接型・施設分離型	

※十勝管内の「義務教育学校」は、「帯広市立大空学園義務教育学校」と「新得町立富村牛小中学校」です。

※十勝管内で「小中一貫教育」を導入しているのは、「幕別町」と「陸別町」のみです。

○帯広市立大空学園義務教育学校の教育課程の全体像（令和4年度児童生徒数484人）

修業年限	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年
教育課程の区分	前期課程 (小学校学習指導要領)						後期課程 (中学校学習指導要領)		
	初等部 《基礎期》			中等部 《充実期》			高等部 《発展期》		
指導形態	学級担任制 (一部教科担任制)				全教科担任制				
テスト等形態	単元テスト(従来のテスト)				定期テスト(中間・期末)				
P T A活動	一本化								
主な学校行事	入学式(1年)、卒業式(9年)、体育祭(合同)、文化祭(合同)、 修学旅行(6・9年) ※その他:夢の式(4年)、立志式(6年)								
部活動・少年団活動	少年団				部活動				
授業時間	45分授業				50分授業				
制服・指定ジャージ	なし				希望制(検討中)		推奨服・指定ジャージ		

○義務教育学校で考えられるメリット

1 義務教育学校の教育の特例により教育課程区分を「6-3」以外に

現行の教育課程の区分は小学校6年の前期課程、中学校3年の後期課程になりますが、義務教育学校では、9年間の中で独自の区分を設けて子ども達の発達段階に
応じて、効率的な教育課程を組み指導を行うことが可能となります。

「帯広市立大空学園義務教育学校」では、「初等部4年-中等部3年-高等部2年」
の区分にしています。

2 一つの「学校組織」であること

義務教育学校は一つの組織であるため、1名の校長のリーダーシップのもと、9
年間を見通した教育目標を掲げ、児童生徒の指導に当たり、より多くの教職員が関
わることが可能となり、児童生徒の資質や能力を伸ばすことが期待できることや、
学校の小規模化による影響の緩和が一層期待されます。また、教科内や教科間の学
習内容の関連性を意識して指導順序や指導内容を考えることができ、9年間継続し
て、児童生徒に対する指導が行われるため、教員間で児童生徒の情報を共有しやす
く、児童生徒の個性に応じたきめ細かで丁寧な生徒指導が可能となります。

「帯広市立大空学園義務教育学校」でも、校長、副校長、教頭2人の管理職のもと、一体的な組
織体制になっています。

3 異学年交流による精神的発達

義務教育学校における1年生から9年生までの児童生徒が学校行事などを通じた
異学年交流による精神的な発達や社会性の育成の効果が期待されておりますが、「帯
広市立大空学園義務教育学校」においても、初等部の児童は高等部の生徒を真似て、
高等部の生徒は初等部の児童に優しく接する傾向があるようです。

- ① 学校の保護者懇談会等で話を聞いたことがある。
- ② 「学校だより」で見たことがある。
- ③ 他の保護者などから聞いたことがある。
- ④ 目にしたり聞いたりしたことはない。

⇒『現在の検討事項の認知度』の傾向

「幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方について」は、**①②③の「聞いた・見た」が93.7%、「④知らない」が4.4%となっており、これまでの「学校だより」や「保護者懇談会」での説明が浸透していることが確認できる。**

設問4 「義務教育学校」について、これまで目にしたり聞いたりしたことはありますか？（複数回答可）【○囲み】

- ① 学校の保護者懇談会等で話を聞いたことがある。
- ② 「学校だより」で見たことがある。
- ③ 他の保護者などから聞いたことがある。
- ④ 「まくべつ学園」講演会で、「大空学園義務教育学校」の取組を聞いた。
- ⑤ 令和4年4月に開校した「大空学園義務教育学校」を報道等で知った。
- ⑥ 目にしたり聞いたりしたことはない。

⇒『義務教育学校の認知度』の傾向

「義務教育学校」については、**①②③④⑤の「聞いた・見た」が84.9%、「⑥目にしたり聞いたことがない」が13.2%となっており、「今後の進め方」での説明で触れていたことから、概ね認知されていることが確認できる。**

設問5 あなたの考える「義務教育学校」のメリットはどれですか？

（複数回答可）【○囲み、記入】

- ① 「中一ギャップ」と呼ばれる問題が緩和する効果が、より期待できる。
- ② 義務教育学校の教育の特例により教育課程区分を「6-3」以外にできる。
- ③ 小学校と中学校が一つになり、1名の校長で一つの「学校組織」になる。
- ④ 異学年交流による精神的発達が可能になる。
- ⑤ その他

(_____)

⇒『義務教育学校のメリットの感じ方』の傾向

「義務教育学校のメリット」については、「①中1ギャップの緩和」が最も多く35.7%、次いで「④異学年交流による精神的発達」が32.0%となっており、この2点のメリットが考えられているが、一方で、「②教育課程区分を6-3以外」や「③一人の校長（ひとつの組織）」は、あまりメリットとして考えられていないことが確認できる。

設問6 「まくべつ学園」のあり方と施設整備の方向性について検討している、次の3通りのうち、あなたが最も良いと思う方向性はどれですか？【○囲み】

- ① 幕別小学校と幕別中学校を使用した
「施設分離型」の「小中一貫型小学校・中学校」
- ② 幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した
「施設一体型」の「小中一貫型小学校・中学校」
- ③ 幕別小学校あるいは幕別中学校を活用した「義務教育学校」

⇒『今後の方向性の三択』の傾向

(1) 今後の方向性の三択

「①施設分離型」が28.9%、「②施設一体型」が32.7%、「③義務教育学校」が35.2%で、「③義務教育学校」が最も高い回答率となった。

※幕別小学校：①31.6%、②28.4%、③35.8%

※幕別中学校：①25.0%、②39.1%、③34.4%

(2) 一つの施設に集約することへの理解

今後の方向性の三択の中では、それぞれで大きな差は見られなかったが、「②施設一体型」と「③義務教育学校」の合計で67.9%となり、一つの施設に集約することには理解を得ていると考えられる。

設問7 ご意見、ご質問等がある場合は、ご記入ください。

⇒ アンケートの自由記載欄の代表的なご意見やご質問への回答(「学校だより」の7月号で回答)

(1) 義務教育学校では、9年間同じ学校で生活をするようになるので、人間関係が「固定化」しやすいため、過去に嫌な思いを受けた場合や、心機一転やる気を出そうとする場合など、気持ちを切り替える「環境の変化」の機会が軽減されてしまうのでは？

【回答】幕別小学校と幕別中学校は、通学区域が一致しており、小学校から中学校に進学しても、人間関係がある程度「固定化」されることについては、現在も同様であり、義務教育学校になった場合でも、大きな変化はないものと考えております。現在は、「まくべつ学園」として、9年間を通して「小中一貫教育」を推進しており、「乗入授業」や「中学校登校」など、小中学生の交流や教員相互の連携を行っておりますが、義務教育学校では、さらに、より多くの教職員が関わる事が可能となり、学校の小規模化による影響の緩和が一層期待され、9年間継続して、教員間で児童生徒の情報を共有しやすくなりますことから、児童生徒の個性に応じたきめ細かで丁寧な生徒指導が行えるなど、気持ちの切り替えが必要になる児童生徒に対しても、寄り添った対応を行えることが期待されています。

(2) 義務教育学校の場合は、9年間をひとつの「学びの場」と考えるため、これまでの小学6年生が最高学年であると自覚する場面がなくなるのでは？また、卒業式は9年生のみとなるため、これまでの小学6年生の卒業の達成感や成長したと実感する機会が減ってしまうのでは？

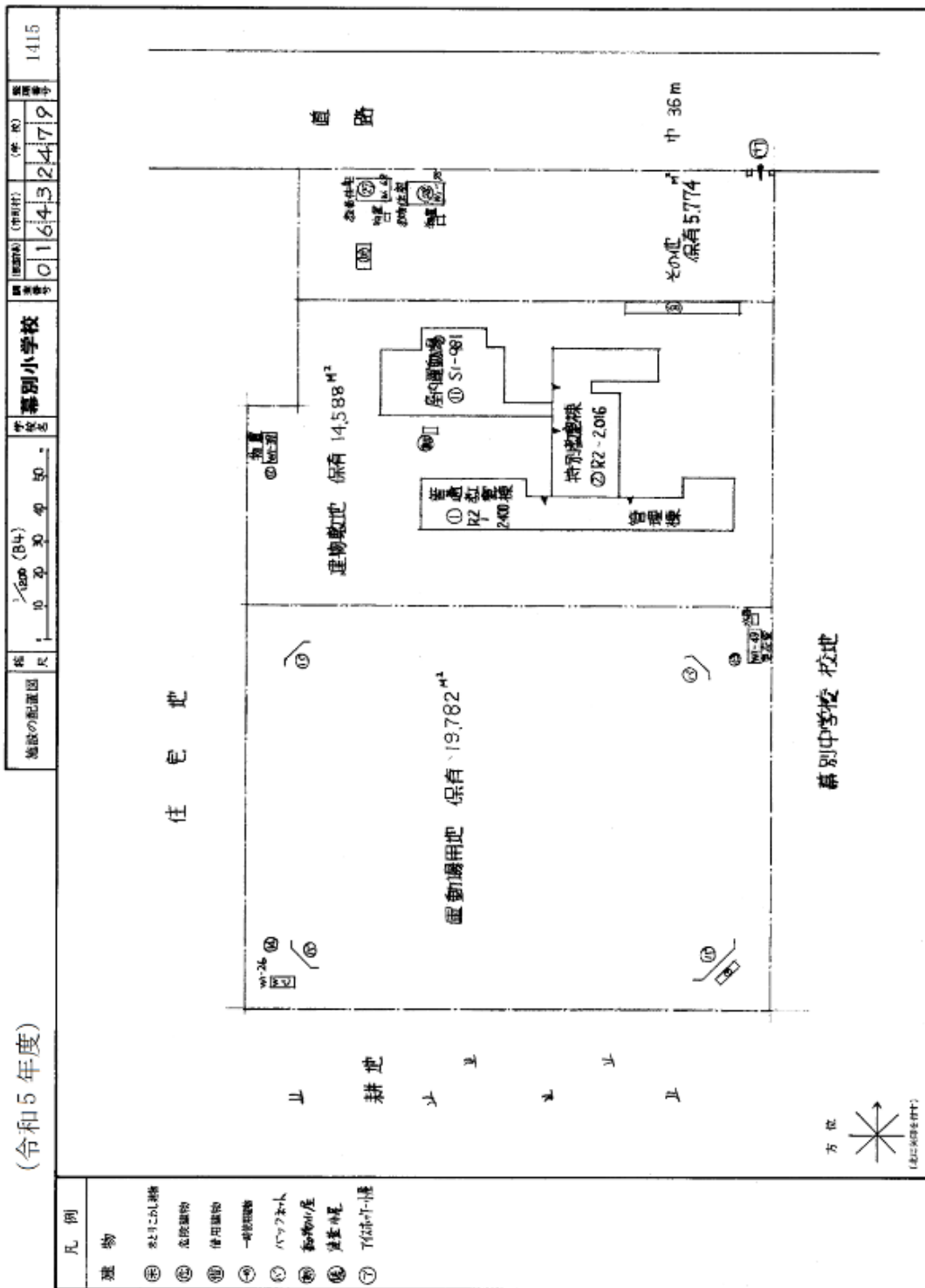
【回答】帯広市立大空学園義務教育学校の例では、6年生修了時には卒業式に代わる修了式(立志式)を行うなど、これまでと大きく変わらないような工夫がされております。

また、義務教育学校における1年生から9年生までの児童生徒が学校行事などを通じた異学年交流による精神的な発達や社会性の育成の効果が期待されており、初等部(1～4年生)の児童は高等部(8、9年生)の生徒を真似て、高等部の生徒は初等部の児童に優しく接する傾向があるなど、各学年で成長が期待されています。

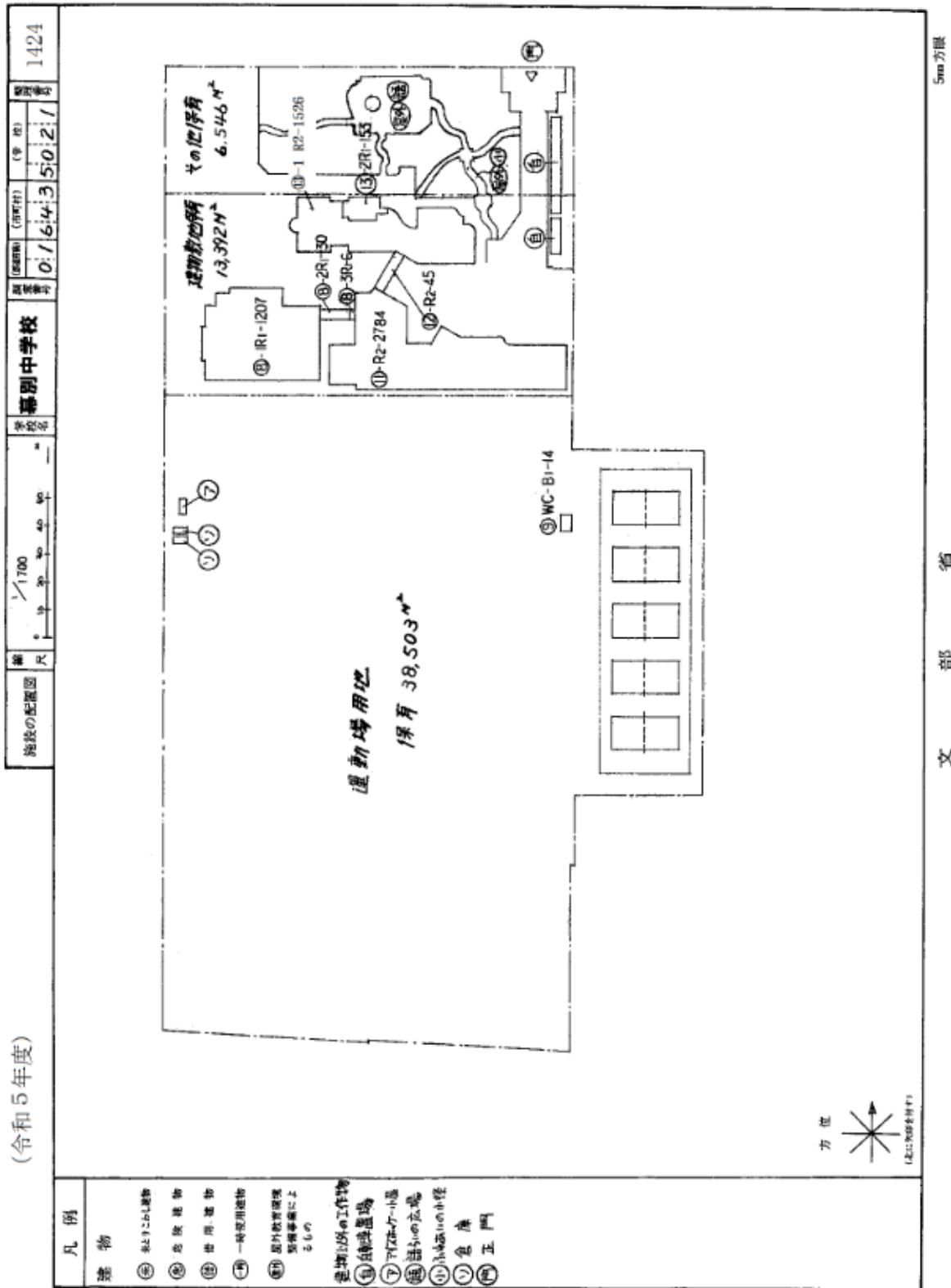
(3) 幕別小学校の老朽化の問題は早急な課題だと思う。また、屋外トイレを使用しやすいように改善を。

【回答】令和2年11月に、「幕別町学校施設の長寿命化計画」を策定し、令和4年度から札内南小学校の長寿命化改修工事に着手しておりますが、幕別小学校の老朽化の問題は早急な課題と認識しており、次期対象施設として幕別小学校校舎を検討してきたところであります。次期対象施設として検討している幕別小学校校舎につきましては、幕別小学校と幕別中学校の今後の小中一貫教育の進め方が大きく関わっており、先般、実施いたしました保護者アンケートの結果等を踏まえながら施設整備の方向性を早急に結論づけることとしておりますので、その中で、どちらの学校をどのように改修していくのか決定していく予定です。なお、上記の施設整備の中で、屋外トイレのあり方等についても検討する予定であります。

参考2 幕別小学校配置図

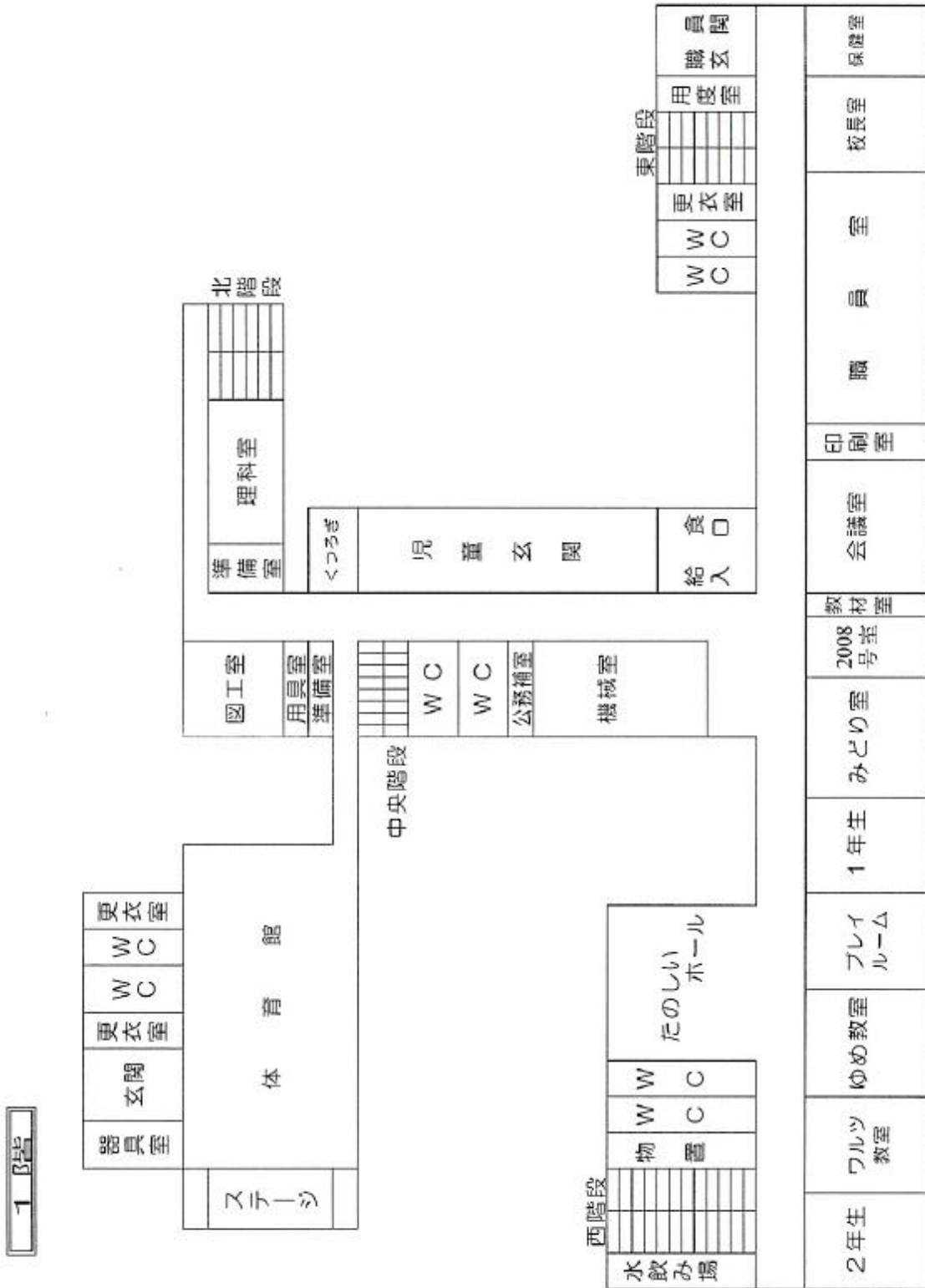


参考3 幕別中学校配置図

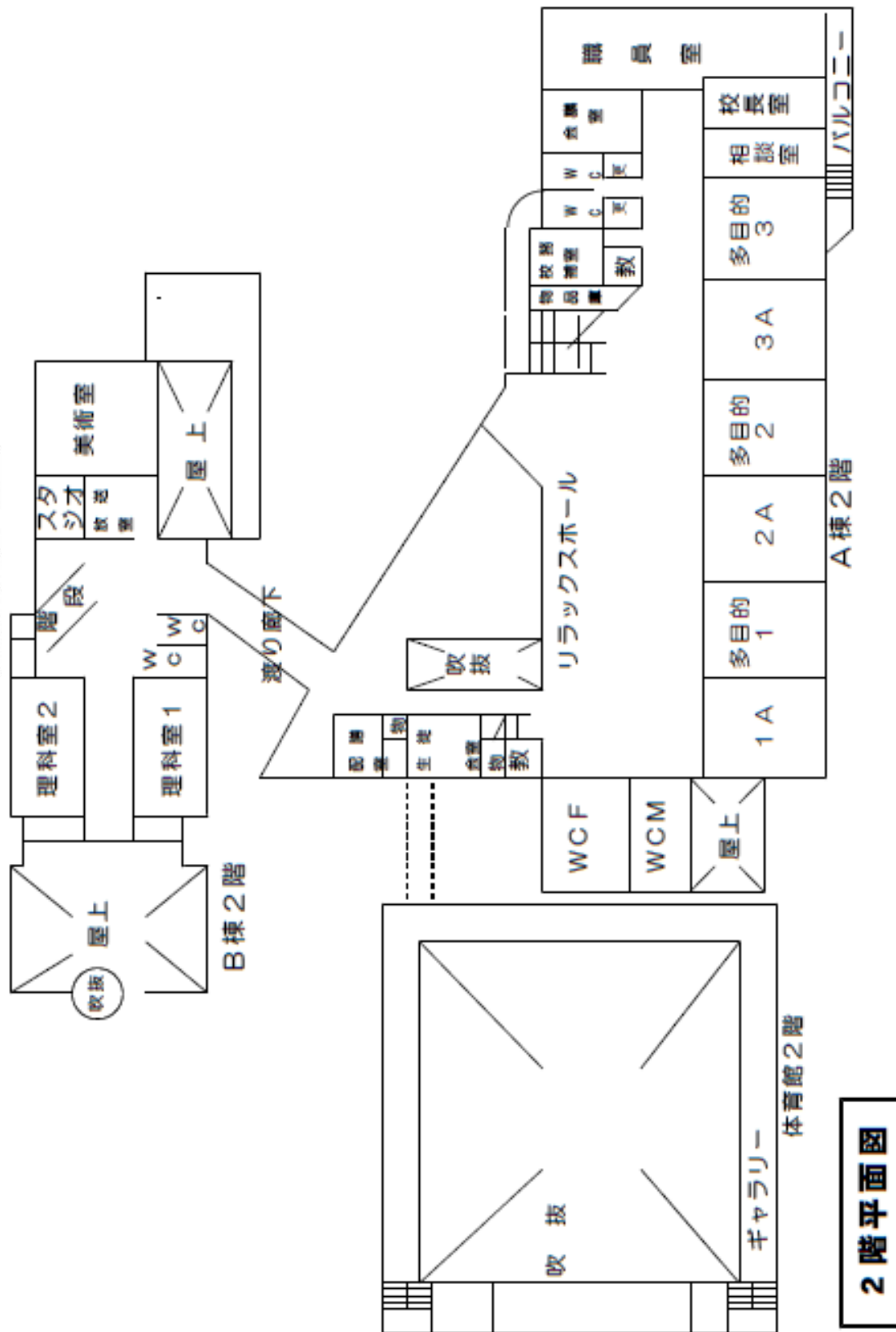


参考4 幕別小学校平面図

(1階)



(2階)



2階平面図